



東北大学

# Newsletter

TOHOKU UNIVERSITY Diversity, Equity & Inclusion NEWS



## 東北大学DEI推進センター

Vol. 2  
2024 Mar

「DEI」とは、「Diversity(多様性)」「Equity & Inclusion(公平性と包括性)」からなる頭字語(アクロニム)。東北大学が「紡ぐ」男女共同参画の取組が、ムーブメントとして広がっていくことを目指しています。

### Headline News

## 第1回東北大学DEI推進フォーラム 「東北大学が目指すDEIとは～サポートする現場から～」の開催



パネルディスカッションの様子



集合写真

2月28日、片平キャンパス「知の館」3階の会議室で、学内限定公開イベントとして第1回東北大学DEI推進フォーラム「東北大学が目指すDEIとは～サポートする現場から～」が開催されました。

本フォーラムは、2022年ダイバーシテ・エクイティ&インクルージョン(DEI)推進宣言が発出され、2023年7月に男女共同参画推進センターがDEI推進センターに名称変更になったことに伴い、学内の多様な主体の横の連携を図り、またその声を大学の執行部と共有しながら、本学のDEIの青写真を築いていきたいという趣旨で企画されたものでした。

当日は、学内で多様な構成員のサポートを行う主体として、学生相談所、特別支援室、グローバルラーニングセンター、キャリア支援センター、そしてDEI推進センターの5つの組織が参加し、それぞれの取り組みを紹介すると同時に、多様化する構成員の特性や属性、それに伴う現場での対応などについて共有し、連携の重要性を確認する場となりました。牛尾則文理事の開会の挨拶で始まった当日のフォーラムは、主催者であるDEI推進センター田中真美センター長の趣旨説明後、第1部として各組織の実務者による報告がありました。第2部では多文化PBL授業で行われた学生さんたちからのDEI提案内容の報告、その後会場からの質問を中心とするパネルディスカッションが行われました。

フォーラムには、本学の牛尾則文理事(人事労務・環境安全・施設担当)と滝澤博胤理事(教育・学生支援担当)が対面で、大隅典子副学長(広報・ダイバーシティ担当)がオンラインで参加され、パネルディスカッションでは会場の質問に直接答える場面もありました。

当日は、ハイブリッドで学内約75名(関係者を含む)が参加されました。当日の報告内容については以下もご参照ください。

HPのリンク <https://dei.tohoku.ac.jp/news/32956/>

### プログラム

#### 第1部 各サポート現場からの報告

- 開会の挨拶: 牛尾則文理事(人事労務・環境安全・施設担当)
- 趣旨説明: 田中真美教授(DEI推進センター/センター長)
- 報告1: 李善姫(DEI推進センター/専任講師)  
ーダイバーシテ・エクイティ&インクルージョン推進センターの取り組みと今後の課題
- 報告2: 池田忠義(学生相談・特別支援センター/副センター長・教授)  
ー学生相談所における多様な相談と対応
- 報告3: 高橋真理(特別支援センター/助手)  
ー東北大学における障害のある学生への支援の実態
- 報告4: 渡部留美(グローバルラーニングセンター/准教授)  
ー留学生が抱える課題とコース・東北大学の現状とGLICによるサポート
- 報告5: 猪股廣之(キャリア支援センター/センター長・教授、門間由記子(キャリア支援センター/講師)  
ーキャリア支援センターにおけるDEI推進の取り組み

#### 第2部 コメントとパネルディスカッション

- 小嶋緑(グローバルラーニングセンター/特任助教)  
ー国際共修-多文化PBL科目~学生視点のキャンパスDEI推進
  - パネルディスカッション
  - 大隅典子副学長(広報・ダイバーシティ担当)からのコメント
  - 牛尾則文理事・滝澤博胤(教育・学生支援担当)
  - 開会の挨拶: 滝澤博胤(教育・学生支援担当)
- 第1部司会: 小嶋緑(グローバルラーニングセンター/特任助教)  
第2部司会: 秋山正幸(DEI推進センター/副センター長・理学研究科教授)



牛尾理事



滝澤理事



大隅副学長

開催日: 2024年2月28日(水)13:00-15:00

開催方法: ハイブリッド

対象: 本学に所属する教職員、学生・大学院生



# 令和4年度DEI推進及び研究環境に関するアンケート調査の分析結果が公表となりました

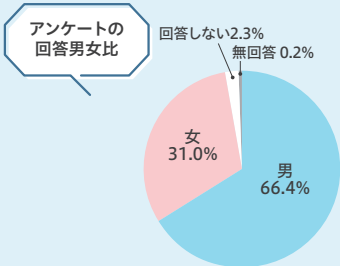
本調査は、東北大学の研究者を対象とし、令和4年12月19日から令和5年2月15日までの間にWebにより実施しました。教員向けの研究環境アンケートは、2016年から2年に1度実施、今回で4回目の実施となりました。一方、職員向けアンケートはこれまでの単発的に実施したものはあったが、職員のみを対象にしたものとしては初めてで、今後持続的に実施し、職員の働き環境についても現状を把握し、DEI推進のための提言を行う予定であります。以下、アンケートの結果報告を簡単に紹介します。詳細はDEI推進センターのホームページをご参照ください。

## 第4回 DEI推進及び研究環境に関するアンケート(研究職対象)実施報告

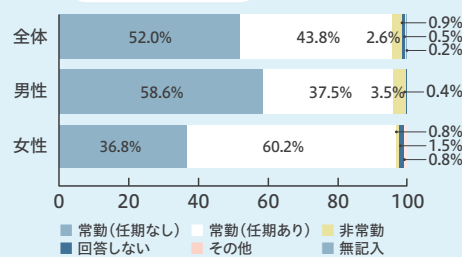
今回のアンケートでは、対象者3,781名中、429名が回答し、回答率は11.3%とこれまでのアンケート調査の中で最も低かった。429名の内訳は、男性が285人(66.4%)、女性が133人(31.0%)で、性別非回答・無回答が11名で(2.7%)であった。職位や任期では、女性研究者は教授職で少なく、一方任期付き常勤職に多いというジェンダー差が明瞭に見出された。研究者としてキャリアを離れた理由は、女性では依然として「ライフイベント」が、男性では「もっと魅力のある職業があった」が多かった。「研究ポストがなかった」は男女ほぼ同数であった。

家族関係では、女性研究者の独身率が28.6%と高く、パートナーがいる女性研究者の中でも25%ほどが単身赴任を含めた別居状態であった。女性研究者の一人暮らしの割合が男性より多いという結果はこれまでの研究環境アンケートの結果と変わらない。ただ、今回の調査で、「女性研究者の12%が中学生以下の子どもをワンオペで子育てしている」ことが注目された。また、極少数ではあるが、父子家庭で子育て中の研究者もいる事がわかった。そのような不利な研究環境で孤立した戦いをさせないためにも、DEI推進センターが今後も寄り添い支援を続けることが必要であると思う。

平日の研究、教育、管理・運営、家事・育児・介護(ファミリーケア)の時間配分について、以前の調査同様、男性は女性より研究に、一方女性は男性よりファミリーケアに多くの時間を費やしている。また、診療を行う女性の医療系研究者はファミリーケアに費やす時間が最も長く、その分個人的な自由時間が他の研究者に比べて少ない。ワークライフバランスの満足度は全体的には高いが、73%の研究者は「ワークライフバランスに有効だ」とされている在宅勤務を行っていないと答えた。在宅が難しい職務もあるので一律に奨励することはできないが、自由回答で多く指摘されたように、研究者の意向によって在宅勤務も選択しやすい職場環境作りが必要であろう。



### 雇用形態の男女差



### 本学のDEIニーズ

今後必要な支援について	(必要と答えた%)	
	教員	職員
ワンストップ相談窓口	35.2%	27.6%
ベビールーム・授乳室	38.5%	21.3%
放課後児童クラブ(常時・有料)	40.1%	18.9%
長期休み児童クラブ(有料)	41.0%	22.4%
DEI交流スペース	20.7%	12.1%
大学院向け奨学金(育児中)	38.9%	22.7%

▶ 研究職は子育てに関するニーズが高い  
▶ 職員は相談システムに対するニーズが高い

## 第1回 DEI推進に関するアンケート(職員対象)実施報告

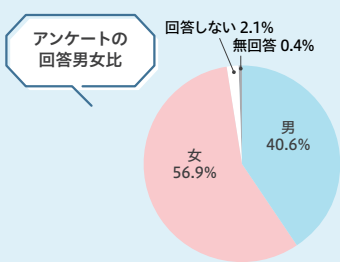
職員対象のDEI環境アンケートでは、全対象者10,189名のうち620名(6%)の回答であった。性別は、回答者の252名が男性、353名が女性、その他が13名、無記入が2名であった。回答者の基本的属性から、働き方の男女差がはっきりと見え、女性の非常勤雇用の比率の高さ、賃金格差、雇用期間の短さなどが本学職員内でも存在することが明確になった。管理職と中間管理職における割合の男女格差も大きく、男性の46%は中間管理職以上のポストに居るが、女性の場合は14%にとどまる。収入も、女性職員は年収400万以下にすると61%であり、一方男性は400万以上が71%であった。

家族関係においては、パートナーがいる職員といない職員の比が約7:3であり、女性の方が若干パートナーのいない比率が男性より高い。パートナーとの別居率においても、女性の方が僅かな差ではあるが高いことは研究職と同じである。

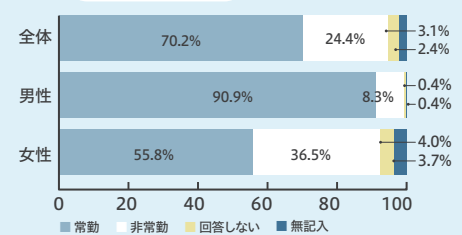
勤務時間とワークライフバランスについては、10時間以上の長時間労働が多いほど、満足度は低いことが明らかになった。1日で家事・育児・介護

などファミリーケアに費やしている時間は、子どもがいる女性では平均5時間と最も長い。これに対し、子どもがいる男性職員の家事・育児・介護に費やす時間はその半分にも満たない結果となった。さらに、在宅勤務がワークライフバランスの改善に有効だとする考えは多いが、現実には在宅勤務を殆どしていない人が67%にのぼることも注目される。

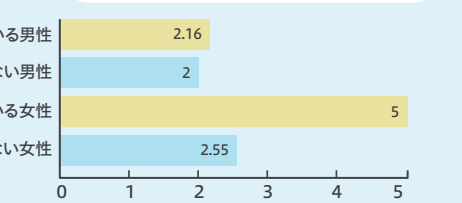
本学のこれまでの男女共同参画の取り組みをどう評価しているかとの質問では、無意識のバイアスへの周知を強化する必要があるとの結果となった。また、相談窓口の一本化に対するニーズが相対的に高く、職員も相談しやすい環境を求めていることが伺われた。



### 現在の雇用形態



### 1日家事・育児・介護に費やしている時間(平均)

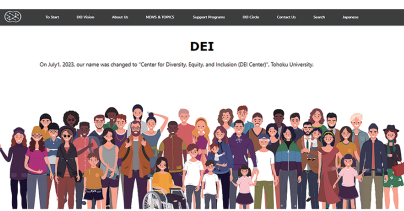


アンケートの報告書に関しては3月にHP公開



## DEI推進センター英語版ホームページをリニューアルしました。

昨年9月にリニューアルした日本語版HPに続き、DEI推進センター英語版HPが公開されました。皆様に使いやすいサイトを目指し、内容を充実してまいりますので今後ともよろしく申し上げます。(画像:英語サイト)









速報

むらさきせんだいはぎ

# 2023年度 東北大学優秀女性研究者賞「紫千代萩賞」受賞者決定

	所属・受賞者名	業績名	受賞コメント
人文・社会科学分野	 国際文化研究科 大澤 絢子 特任研究員	近現代日本における 人格形成と人物表象に 関する総合的研究	審査員の先生方をはじめ、日頃より温かな励ましやご助言をくださる先生方、職員の皆さまに、心から感謝申し上げます。近現代を生きる人々の自己形成(修養)の歴史と実態解明にあたっては、広く社会に浸透してきた価値観や想像力に対する柔軟な研究姿勢が求められます。本学は、そのスキルを鍛えて成果を形としていくだけでなく、国際的・学際的な視点から、人間の多様な精神性の探究に取り組むことのできる恵まれた環境であり、大変ありがたく思っております。この度、第7回紫千代萩賞をいただき誠に光栄です。 この受賞を励みに、今後さらに研究活動に邁進し、その成果を社会に発信していけるよう努めてまいります。
理学・工学分野	 流体科学研究所 焼野 藍子 助教	高速輸送機器高性能化の ための流れ機構解明と 制御の研究	このたびは、栄誉ある「紫千代萩賞」を贈っていただくことになり誠にありがとうございました。これまでご指導いただいたすべての皆さんに心からお礼申し上げます。私は工学部の機械工学科卒で、クラス的女子率は数パーセントでした。私は化粧も気もなくいつも前の方の席に座るので、「ハーマイオニーと呼ばれていたのを、懐かしく思い出しました。東北大学工学部の女子学生さんたち、自分軸を持ったしっかり者のなんと愛すべき人たちだろうといつも感じています。ぜひ持ち前のバラス力で、豊かな日本の未来に貢献されますように。時代が違えば、女子は前に出ることも、はしたないことになったでしょう。道を作ってくださった先人たちには、感謝してもしきれないと思います。東北大学の開学以来の「研究第一主義」の伝統、「門戸開放」の理念及び「実学尊重」の精神が、これからも東北大学の特色であり強みであり続けますように。
農学生命科学分野	 生命科学研究所 小松 愛乃 助教	植物の栄養繁殖を 調節する 分子メカニズムの研究	この度は栄誉ある「紫千代萩賞」を授与していただき、ありがとうございます。着任当初よりいつか挑戦したいと思っていた賞をいただき、大変嬉しく思います。多くの温かなご指導とご助言に支えられ、これまでの成果を出すことができました。また、本学のサポートプログラムを利用できたことで、研究に専念することができました。研究を支えてくださった多くの皆様に心より御礼申し上げます。引き続き、植物の環境に適応する調節機構を研究することで、千代にも続く未来の発展に貢献したいと思っております。より一層精進してまいりますので、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。
医歯薬学 保健分野	 加齢医学研究所 小川 亜希子 助教	エピトランス クリプトームによる 生体代謝研究	加齢医学研究所の小川亜希子と申します。「仙台で千代にも続く知と創造をもたらす」という由来を持つ素敵で、栄誉ある紫千代萩賞に選んでいただき誠に光栄に思います。私は眼科医で、緑内障をはじめとする加齢性眼疾患の研究をライフワークとして行なっております。研究を通じて社会の課題と向き合い、真に価値のある生体の仕組みを解明することで社会に還元・貢献できるかを考えながら、今後も精力的に研究を展開していきたいと思っております。今回受賞できましたのは、周囲の方々の温かいご支援とご指導、ご鞭撻の賜物と思っており心より感謝申し上げます。



## TUMUG オンラインランチミーティング

TUMUG Online Lunch Meetingは、新型コロナウイルス感染拡大防止をきっかけに2020年度4月よりスタートし、以後東北大学の女性研究者のネットワークの形成及び実質的な学際融合研究等への発展を目的に定期的実施されています。今年度後半は、11月と2月に開催され、各回40名前後の参加がありました。

11月に開催された第30回目は、現在子育て中の5名の先生方から研究と育児の両立の大変さ、不安や悩み、更には今後の課題などをお話していただきました。特に今回は、男性の育児参加も広がっている中、お父さんの立場からも貴重な体験談を共有していただきました。後半には更に質問、アドバイスなども交換され、次の機会には就学児をお持ちの先生方の体験談やアドバイスを聞きたいという意見がありました。

話題提供をしていただいた先生は、以下となります。

(五十音順)

佐藤 恵美子 准教授(薬学研究科)・高橋美能 准教授(高度教養教育・学生支援機構・グローバルラーニングセンター)・原 健士郎 准教授(農学研究科)・焼野 藍子 助教(流体科学研究所)・山中 謙太 准教授(金属材料研究所加工プロセス工学研究部門(兼)大学院医工学研究科)

2月に開催された第31回目は、本学の育児休業を取得した、現在子育て中の男性教職員の方から「研究・仕事と育児の両立」と「男性の育児参加を増やすために」をテーマに、話題提供をいただき、男性の育児休業のあり方と課題について議論しました。

話題提供をしていただいた教職員の皆様は、以下となります。

(五十音順)

会田 俊介 技術職員(工学研究科)・宇田 智紀 助教(材料科学高等研究所)・佐藤 梓 主任(総務企画部)

更にこれからもオンラインランチミーティングを継続し、ネットワークを広げ確固としたものにして行きたいと思っております。多くの方の参加をお待ちしております。



2023年度  
スキルアップ  
セミナー

## 学会発表や講義の役だつ オンライン技術セミナー～

「2023年度スキルアップセミナー～学会発表や講義に役だつ オンライン技術セミナー～」を開催しました。大隅典子DEI推進委員会委員長が、オンラインの特徴を意識した資料作成やプレゼンのコツ等を解説しました。オンラインでの学会発表や講義で役立つ内容を講演し、その後、参加者からの質疑応答がありました。26名(関係者含む)の方々にご参加いただきました。

「学会発表や講義に役だつ  
オンライン技術セミナー」  
Important tips for presentation online



### 【参加者の声】

- ・経験にもと基づかれたお話で、実際に役立つので大変、有用だった。
- ・プレゼン資料作成・発表において、これまで意識していた部分も、新たな情報も、両方あったが、改めてまとめて考え、また先生からの講演という形で聞くことで、自分の資料で継続して気を付けること、新たに考慮する点を整理できた。
- ・普段から気を付けている点に加え、新たに注意すべきポイントがいくつかもあり、大変勉強になりました。有難うございました。
- ・ポスター作成について、上手な方はどのようにやっているのかを一から知ることができ、とても勉強になった。基本的だがあまり人に質問できない点についても優しく教えていただき、とてもありがたかった。今後様々な人向けにわかりやすく・魅力的に自分の研究を話せるようになりたいので、今回のセミナーに参加でき勉強になった。
- ・専門分野の勉強機会は多々用意されているが、例えば、資料作成や論文執筆、論文検索など、どの研究者にも共通するテクニク的な話を聞く機会はなかなかなく、貴重で大変ありがたいと思った。

日時 2023年12月18日(火)13:30-15:00

開催方法 オンライン

対象 東北大学または全国ダイバーシティネットワーク東北ブロック参画機関に所属する教職員、学生・大学院生



# 2023年度 サイエンス・アンバサダー(SA)活動報告

## [10/7(土)] 片平まつり2023

東北大学の研究所やセンター、史料館を紹介する秋のイベント「片平まつり2023「集まれ！未来の科学者たち！」が、対面で開催されました。DEI推進センターでは、東北大学サイエンス・アンバサダーと海外にルーツを持つ大学院生で構成されたScience Seeker（サイエンスシーカー）と共に、体験型科学イベント「化学の力でカラフルなアサガオを作ろう！/ オレンジパワーでスタンプを作ろう！by サイエンス・アンバサダー」と、「色彩探偵からの挑戦 by サイエンスシーカー」を行いました。当日は多くの親子連れに来場いただき、水性ペンの特性を活かしたペーパーアサガオを作りパネルに貼る体験、オレンジオイルと発砲スチロールの仕組みでオリジナルスタンプを作る体験、そして「色」という身近なものを科学的観点から学び、色彩探偵の一員として謎を解決してもらいました。当日は、約180名（保護者含む）の方にご参加いただきました。

会場 東北大学 片平キャンパス エクステンション教育研究棟1階 参加SA 14名 運営協力者 2名



## [12/2(土)] 名取市館腰公民館主催「わんぱく体験 実験教室」

館腰公民館主催の小学生向け科学体験イベント「わんぱく体験 実験教室」が、館腰公民館にて開催されました。3名の東北大学サイエンス・アンバサダー(SA)が「不思議なスライムを作ってみよう！」というテーマで「磁石で動くスライム・暗闇で光るスライム」を作り、スライムが出来る原理を学びながら実験を行いました。参加した小学生からは、「とても楽しかった。また機会があったら作りたい！」「スライム作りで光るスライムや磁石で動かすスライムは見たことがなくて、またやりたいです。」などの声をいただきました。当日は14名の小学生が参加しました。

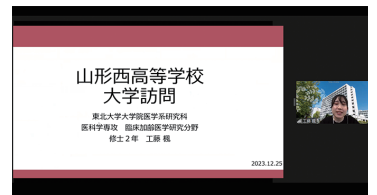
会場 名取市館腰公民館 参加SA 3名 主催 名取市館腰公民館



## [12/25(月)] 山形県立山形西高等学校・オンライン研究室訪問

科学技術に対する理解を深め、理科への興味・関心を高めることにより、将来の科学技術の進展に対応する能力の育成や理系分野の進路選択の幅を広げることを目的とした「西高理系プロジェクト」の一環として、山形西高校1年次生77名、2年次生10名の合計87名が参加しました。今年はオンラインで開催され、瀧教授(医学系研究科)と古本教授(薬学研究科)が研究室の紹介と模擬講義を行いました。SA5名も自身の研究テーマについて発表を行いました。その後、高校生の皆さんから積極的に質問があり、研究内容や高校時代の生活、勉強方法などについて伝えました。

開催方法 オンライン 参加SA 5名



## [1/11(木)] SA母校出張セミナー(奈良工業高等専門学校)

東北大学サイエンス・アンバサダー2名の母校である奈良工業高等専門学校にて、自身の進路選択や大学生活に関する発表を行いました。セミナー後に行われた座談会では、個別に質問に答え、高専生の疑問等を解消するなど、交流を深めました。当日は9名の高専生が参加しました。

会場 奈良工業高等専門学校 参加SA 2名



## [2/21(水)] 学校法人星野学園オンラインセミナー

理工系の進路を志す学生のキャリア形成や大学・大学院での学問探究、さらにその後の社会に繋がる活動の実施を目的として、SAが進路選択・研究発表を行いました。学校法人 星野学園での開催は今回が初でしたが、中学生2名、高校生31名の合計33名の参加がありました。SA3名から自身の研究テーマや進路選択についての発表を行いました。その後、参加者の皆さんから積極的に質問があり、高校時代の勉強方法や進路選択などについて伝えました。

会場 オンライン 参加SA 3名



## [3/30(土)] SA監修・出演「東京エレクトロン宮城presents 小島よしおのまちぶらサイエンス」

SAが、特別番組「東京エレクトロン宮城presents 小島よしおのまちぶらサイエンス」に出演・監修しました。Part3となる今回は仙台市中心部を舞台に、小島よしお氏(タレント・お笑い芸人)と安東理紗アナウンサー(フリーアナウンサー)とともに、身近にあるサイエンスの楽しさを伝えました。

放送局 東北放送 参加SA 9名





# 2024年度 TUMUG支援事業のご案内

2024年度「TUMUG支援事業(男女共同参画・女性研究者支援事業)」を下記の通り実施します。公募要領をご確認のうえ、ぜひご応募ください。

本部締切 4月~7月分

## 研究支援要員

両立支援 女性リーダー育成

研究支援要員雇用のために必要な人件費の補助

対象者

- ◎出産・育児・介護等を行う教員・特別研究員技術職員(男女)
- ◎国の審議会委員等の要職に就く女性教員・技術職員、女性特別研究員

## ベビーシッター利用料等補助

両立支援

業務と育児の両立に必要なベビーシッター利用料等の補助

対象者

育児を行う教職員、ポスドク、博士学生等(性別問わず)

※職員も利用できるようになりました

## スタートアップ研究費

女性リーダー育成

新規採用の女性教員に、研究スタートのための研究費を支援

対象者

新規採用の女性教員(助教以上)

## ネクストステップ研究費

女性リーダー育成

新規の研究課題の遂行や、研究成果の公開に必要な研究費の支援

対象者

女性教員(准教授、講師、助教、特別研究員、助手)

## 東北大学サイエンス・アンバサダー

次世代育成

出張セミナー、オープンキャンパス、科学イベント等の企画・実施

対象者

大学院女子学生

## 仙台1ゾンタクラブ東北大学大学院女子学生国際学会発表支援事業

次世代育成

国際学会発表に係る参加費用の支援

対象者

大学院女子学生

### 注意事項

- ※プログラムによって対象と締切が異なります。
- ※研究支援要員、東北大学サイエンス・アンバサダーは、各部局担当係を通じての申請となります。各部局における締切にご注意ください。その他のプログラムは、希望者が直接申請することになります。詳細は、追って公開される要項をご確認ください。

4月

April

26回 東北大学 サイエンス・アンバサダー 第2回

月末(予定) 仙台1ゾンタクラブ 東北大学大学院 女子学生国際学会 発表支援事業 前期

5月

May

10回 ネクストステップ 研究費 第1回

7月

July

5回 スタートアップ研究費

26回 ベビーシッター 利用料等補助 第1回

※9月以降のスケジュールは、当センターのWebサイトをご覧ください。



女性リーダー育成

## 2023年 TU-UW AOS DEI関連学生交換プログラム

TU-UW Academic Open Space (AOS)は、東北大学(TU)とアメリカのワシントン大学(UW)が共同で教育と研究を促進するためのプログラムです。東北大学からUWへと学生派遣事業として、一木優花(国際文化研究科)さんが採択され、研究に役立つDEIに関する知識、経験を得るために米国ワシントン州に派遣されました。

こんにちは。私は国際文化研究科の修士1年で、アメリカ合衆国の公民権運動の興隆における女性の役割を研究しています。今回、TU-UW AOS交換プログラムでは、自分が行っている研究に近いワシントン大学の先生方や博士学生との交流をはじめ、研究に関連する博物館等の訪問を行いました。

今回の経験を通して最も深く感じさせられたことは、自分の研究に関して、異なる視点から見つめなおす機会を得ることの重要性です。例えば、ワシントン大学のAlene Moris Women's Centerで出会った博士学生の方とは、今も昔も変わらない、社会に対して女性が果たす役割や、女性たちが彼女らの可能性を最大限に生かして生きていくための支援の方法について話し合いました。私たちが行っている研究は全く異なるものの、Women's Centerの一員として活動する彼女の話を知ることが、私の研究面においても大きな刺激となりました。また、自分の研究に比較的近いフィールドの研究をされている先生方、そして博士学生の方とも交流を行いました。特に印象に残っているのは、「シアトル」という地域性に着目し、アジア系も多い北西地域における公民権運動の発展の様相についてのお話です。私の研究では、アメリカ合衆国南部に焦点を置き、公民権運動の興隆を調査することが中心ですが、人種別の人口構成が全く異なるシアトルでは、南部とは異なる様相で公民権運動が繰り広げられていたことを知り、大変興味深かったです。今回シアトルを訪れ、ワシントン大学の先生・大学院生の方からのお話を通して、自らの研究に関し、これまで気づくことのなかった興味深い事実と巡り合うことができたように思います。また、これまで見逃していた点に気づく機会を得て、スポットライトを当ててみることの重要性を深く感じました。

最後に、渡航前から多くの手助けをくださった関係者の皆様をはじめ、このプログラムに参加することで出会うことのできたワシントン大学の先生方、そして学生の皆様に、この場を借りて感謝申し上げます。今回の経験を活かし、これからも精進してまいります。



渡航期間 2024年 2月28日~3月2日(3泊5日)

報告

## DEI推進コラム

## 多様性を認め、受容し、互いに敬意を払う

東北大学にて職を得たのは2004年2月。工学部材料総合学科で助手としてキャリアをスタートした際、まだ結婚もしておらず子供もおりませんでした。あるとき、学内保育園設立のお知らせをメールで見ても、いつかお世話になるときが来るのかもとぼんやり思ったことを覚えています。幸運にもキャリアを継続しつつ、結婚・出産。息子は川内けやき保育園に生後2ヶ月からお世話になりました。パートナーは東京で勤務。平日はいわゆるワンオペ子育て。そんな中、都内の母校で週1、非常勤講師をしていたため、ベビーシッターさんに保育園への送迎や、帰宅までのお世話をお願いしておりました。学内のシッター補助制度など活用しつつ、金銭的にも時間的にもギリギリで生活していたことが、思い起こされます。子育て期間中は、日々のことに精一杯で、自分はこのままで大丈夫なんだろうかと不安も抱えておりました。周囲に同じようにワンオペ子育てをしながら、研究活動に励む同僚がいたので、ママ友、パパ友として色々相談できたのは心強かったです。息子は現在、中学生。すっかり生意気に育ち、母親の出張不在をむしろ心待ちにするくらいになっています。そんな経験を

踏まえ、子育て等で不安を抱える方がおられたら、少しでもお役にたてればと思います、今のDEI推進センターの副センター長業務をお引き受けいたしました。

研究室には現在、教授、助教、ポスドク研究員、秘書、博士・修士学生、合計17名が所属しております。所属学生は、中国、インドネシア、フィリピン、エクアドル、ナイジェリアなど、それぞれ出身も様々、言語、文化、食習慣、宗教的背景も多様なので、研究室で集団生活をする上で、互いに違いを認め、配慮をしあうことを、研究室主宰として、年度初めをお願いしています。言葉にして伝えることは、時に労力を要するのですが、それでも大切なことだと思います。わかったつもり、伝えたつもりが、誤解や意図しない軋轢を生むことがあり、疎外感や無用な懸念を増大しかねません。DEI推進センターは、東北大学が多様な個性を受容し、皆が個性を遺憾なく発揮できる場作りを支援しています。必要であれば声を上げてください。声を出せない人がいたら、代わりに声をあげることも時には必要です。皆でより良い環境整備に向け、知恵を絞って、手を動かしていきましょう。

## 松八重 一代

DEI推進センター  
副センター長  
環境科学研究科 教授



Event report  
センターイベント  
開催報告

## 「多様性と女性史」日本のジェンダー平等を語る

日時 2023年12月16日(土)14:00-16:00 会場 東北大学片平キャンパス さくらホール 対象 一般参加可

12月16日(土)、東北大学さくらホールで東北大学学生とスタッフによる、演劇「ミモザウエイズ」の朗読劇が開かれました。東北大学ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン推進センターと日仏女性の人権架け橋 ミモザ実行委員会の主催で行われた当イベントは、第1部では学生とスタッフによる朗読劇、第2部では、本学史料館の加藤愉先生より「日本初の女子大生の誕生とその軌跡」の講演、第3部でパネルディスカッションと第4部で参加者とのグループワークという盛り沢山の内容で進められました。演劇「ミモザウエイズ」は、100年の日本女性の歴史を楽しく振り返るというコメディ風演劇で、1910年代・1970年代・1990年代・そして2020年代の4つの時代をつなぐ内容で構成されています。この日は、東北大学女子入学110周年を記念する意味で、1910年代の女性たちの苦悩と女性運動の始まりを描いた内容を朗読しました。出演者は約2か月間、オンラインと対面で演出家である柳田アリスさんからの朗読演技指導を受けました。

朗読劇終了後、参加者からは、「感動した」「最後は涙が出た」などの称賛をいただきました。また、出演者の学生さんたちも「改めて110年前の女性たちの状況がわかり、今を生きる我々がその思いをどう繋げばいいのかが勉強する時間になりました」というお声もありました。第3部のパネルディスカッションでは、ミモザウエイズ制作者のリポアルなみの氏と株式会社enjoy日本の代表取締役のスティール若希氏、そして加藤愉准教授の3人で、日本の女性史100年を振り返ってみたい感想や現在のジェンダー問題をどのように是正していけるのかについてそれぞれの展望をディスカッションしました。最後の第4部のグループワークでは、「100年前と変わったことと変わっていないこと」について参加者全員で話し合い、女性の活躍できる分野が増えたものの、見えないところでの差別の残存、意思決定場における女性の不在、政治参画への低迷などが現在でも課題であることが再認識されました。



各記事の詳細および当センターの活動予定は、WEBやSNSをご覧ください。



東北大学  
ダイバーシティ・エクイティ &  
インクルージョン(DEI)  
推進センター

TEL 022-217-6092

所在地 〒980-8577 宮城県仙台市青葉区片平2-1-1  
E-mail dei-center@grp.tohoku.ac.jp  
WEB https://dei.tohoku.ac.jp

